

シーニックバイウェイ北海道の展開

国土交通省 北海道開発局 建設部
道路計画課 開発専門官 田村 桂一



北海道の雄大な自然環境や景観を生かし、地域との協働により地域資源の保全・改善などを図るシーニックバイウェイ北海道は、約2年間の試行期間を経て、平成17年度より本格的にスタートしました。指定された支笏洞爺ニセコルート、大雪・富良野ルート、東オホーツクシーニックバイウェイと2つの候補ルートで、みちをきっかけにした、美しい景観づくり、活力ある地域づくり、魅力ある観光空間づくりを行う取り組みが進められています。

●地域資源を活用した活動が展開

平成17年5月にシーニックバイウェイ北海道のルート指定が行われ、各ルートの取り組みが6月、9月の集中活動月間を中心に展開されています。

「美しい湖と秀峰、火山に出逢えるルート」をテーマにした支笏洞爺ニセコルートのウェルカム北海道エリアでは、北海道の玄関口として沿道の修景活動が盛んです。恵庭のインターチェンジから市街地に向けた道道での花植えの実施や、千歳空港へのアクセス道路である国道36号などで地域の活動団体や小学校等と行政が連携した植栽活動などが行われています。洞爺湖エリアでは、シーニックバイウェイの理念などを地域住民に直接語りかけるなどの理解の輪を広げています。具体的には、地域住民と国道453号などで清掃活動（ヨゴサンキャンペーン）を実施しています。ニセコ羊蹄エリアでは、羊蹄山周辺のおすすめポイントをレトロバス〈薪バス〉で回るバスツアーや市内を馬車で巡るツアーなど、広域ビジネスを期待させる観光メニューが充実しています。

「四季を彩る花人街道」をテーマにした大雪・富良野ルートでは、フォトコンテスト写真を活用した指定記念オリジナル切手シートの企画・販売を行うなど、今後の地域活動の自立化に向けた取り組みが進められています。シーニックポイント、情報拠点の開設にも取り組み、また、ルートの特徴でもある農村景観の維持・保全を進めるため、農業

との連携も模索しているところです。

「ロマンティックヒーリング・風を感じて走る道」をテーマとした東オホーツクシーニックバイウェイでは、ルート全体で紹介マップを作成。シーニックポイント、情報拠点、景観の良いお店など、地元の人しか知らない情報を掲載し、情報拠点やレンタカーのカウンター等で配布しました。また、アイヌ民族が独自に取り組むエコツーリズムを紹介するシンポジウム、またこれに関連したモデルツアーも実施し、地域文化の紹介も活発です。

●民間企業との連携など取組の広がり

9月の集中活動月間からは、地球環境に配慮しながら自然に親しむ周遊旅行の展開も始まっています。「シーニックバイウェイ・エコツーリング」として進めているこの取り組みでは、CO₂の削減やゴミ問題の対策を分かりやすくまとめた7つのポイントのほか、地元で採れたものを地元で食べる地産地消を推奨しています。

7月に設立した有限責任中間法人のシーニックバイウェイ支援センターでは、これに合わせて北海道の間伐材を活用したエコプレート地域産品を利用したレストラン優待券やポストカードと共に販売し、収益の一部をシーニックバイウェイの推進に活用していくこととしています。また、民間企業等との連携も進んでいます。シーニックバイウェイ北海道を旅行プランとして企画・販売する旅行会社やレンタカー会社が増えてきています。また、シンガポールや香港でもシーニックバイウェイ北海道の旅行企画が展開中です。

現在、指定された3ルートのほか、候補ルートの函館・大沼・噴火湾ルート、釧路湿原・阿寒・摩周ルートや他の地域でも様々な取り組みが進められています。競争力のある美しい個性的な北海道の実現に向けた取り組みは、今、始まったばかりですが、着実に成果を上げてきています。